

野菜の需給・価格動向レポート(平成24年9月18日版)

1 主要野菜の生産出荷状況

種類	8月の価格動向			9月の価格動向		生育及び価格の9月の見通し
	(参考) 保証基準額の算定の基となる平均価格	指定野菜の関東・近畿ブロック旬別平均販売価格		(参考) 保証基準額の算定の基となる平均価格	指定野菜の関東・近畿ブロック旬別平均販売価格	
		中旬	下旬		上旬	
キャベツ	74.19	65	53	74.19	51	<ul style="list-style-type: none"> ・主産地においては、順調な生育で潤沢な出荷になっている。このため、北海道内、岩手県内、群馬県内及び長野県内において、9月上中旬に緊急需給調整を実施。引き続き生育が順調であり、下旬は平年並みの出荷の見込み。 ・最低基準額（平均価格の60%）を下回っていた価格は、平年並みに近づく見込み。
	88.91	70	54	88.91	50	
ねぎ (関東：白ねぎ 関西：青ねぎ)	273.33	261	195	273.33	249	<ul style="list-style-type: none"> ・青森産は、高温と少雨のため、生育が停滞し少なめの出荷になっており、今後も少なめの出荷の見込み。北海道産は、順調な生育で、下旬から本格的な出荷となる見込み。 ・青森産の出荷が少なめと見込まれることから、価格は平年をやや上回って推移する見込み。
	342	403	323	342	286	
はくさい	78.06	72	52	78.06	50	<ul style="list-style-type: none"> ・主産地においては、順調な生育で潤沢な出荷になっている。このため、北海道内及び長野県内において、9月上中旬に緊急需給調整を実施。今後は、適雨により、下旬は潤沢な出荷の見込み。 ・最低基準額（平均価格の60%）を下回っていた価格は、上向く見込み。
	88.72	68	50	88.72	50	
ほうれんそう	583.95	617	594	583.95	719	<ul style="list-style-type: none"> ・群馬産及び栃木産は、高温と少雨の影響で生育が鈍り、少なめの出荷となっているものの、今後は気温の低下とともに平年並みの出荷の見込み。 ・出荷量の回復が見込まれることから、平年を上回って推移している価格は平年並みに近づく見込み。
	670.86	678	652	670.86	752	
レタス	158.27	117	111	158.27	114	<ul style="list-style-type: none"> ・長野産は、少雨の影響や病害の発生もなく、順調な生育で潤沢な出荷の見込み。群馬産は、順調な生育で平年より多めの出荷となっているものの、少雨の影響で平年より早めの切り上がりとなり、月末には出荷の終盤を迎える見込み。 ・潤沢な出荷が見込まれることから、価格は引き続き平年を下回って推移する見込み。
	160.6	117	109	160.6	114	
たまねぎ	84.85	116	113	76.15	101	<ul style="list-style-type: none"> ・北海道産は、順調な生育、出荷となり、前年を上回る出荷となっている。今後も平年並みの出荷の見込み。 ・順調な出荷が見込まれることから、平年を上回って推移している価格は、徐々に平年並みに近づく見込み。
	84.85	139	128	76.15	106	
きゅうり	210.69	152	196	210.69	166	<ul style="list-style-type: none"> ・福島産は、夜温も高く病害もないことから、順調な生育、出荷となっており、下旬までは潤沢な出荷の見込み。埼玉産は、好天の影響で順調な生育となり、今後も潤沢な出荷の見込み。茨城産も、平年並みの出荷の見込み。 ・潤沢な出荷が見込まれることから、価格は平年を下回って推移する見込み。
	221.71	178	218	221.71	181	
トマト	229.51	217	276	229.51	260	<ul style="list-style-type: none"> ・青森産は、高温の影響により花落ちがあったため、少なめの出荷となっている。今後も夜温の低下のため、少なめの出荷の見込み。千葉産は、平年並みの出荷の見込み。北海道産も、高温の影響により花落ちがあったため、少なめの出荷となっている。 ・少なめの出荷が見込まれることから、価格は引き続き平年を上回って推移する見込み。
	271.33	256	320	271.33	291	
なす	209.55	175	155	209.55	176	<ul style="list-style-type: none"> ・栃木産は、高温と少雨の影響により花落ちが見られることから、少なめの出荷となり、今後も少なめの出荷の見込み。茨城産及び群馬産は、品質も良く平年より多めの出荷の見込み。 ・栃木産の出荷が少なめと見込まれることから、平年を下回っている価格は平年並みに近づく見込み。
	221.72	177	160	221.72	191	
ピーマン	263.58	177	163	263.58	173	<ul style="list-style-type: none"> ・茨城産は、順調な生育で潤沢な出荷の見込み。岩手産は、順調な生育で、平年より多めの出荷となっているものの、少雨の影響により今後は少なめの出荷となる見込み。福島産は、平年並みの出荷となっているものの、今後は減少する見込み。 ・茨城産の出荷が潤沢と見込まれることから、価格は引き続き平年を下回って推移する見込み。
	282.16	191	208	282.16	240	
だいこん	94.6	67	75	94.6	81	<ul style="list-style-type: none"> ・北海道産は、作付面積が減少していることと、高温と降雨の影響で歩留まりが悪いことから、平年より少なめの出荷となり、今後も少なめの出荷の見込み。青森産は、播種が遅れた時期のものが出荷となっていることから、少なめの出荷となっているが、今後は平年並みの出荷となる見込み。 ・北海道産の出荷が少なめと見込まれることから、平年を下回っている価格は平年並みに近づく見込み。
	100.39	68	78	100.39	78	
にんじん	123.08	86	86	123.08	95	<ul style="list-style-type: none"> ・北海道産は、順調な生育で、今後も潤沢な出荷となる見込み。 ・潤沢な出荷が見込まれることから、価格は引き続き平年を下回って推移する見込み。
	123.11	88	90	123.11	98	

種類	8月の価格動向			9月の価格動向			生育及び価格の9月の見通し
	(参考) 保証基準額の算定の基となる平均価格	指定野菜の関東・近畿ブロック旬別平均販売価格		(参考) 保証基準額の算定の基となる平均価格	指定野菜の関東・近畿ブロック旬別平均販売価格		
		中旬	下旬		中旬	下旬	
い	さといも	242.66	320	219	242.66	230	<ul style="list-style-type: none"> 千葉産は、順調な生育となり平年並みの出荷の見込み。宮崎産は、台風の影響で収穫作業が遅れたため、8月のピークが9月にずれ込み、平年を上回る出荷となる見込み。 千葉産の出荷が順調と見込まれることから、価格は平年並みに推移する見込み。
	ばれいしょ	220.11	207	202	220.11	222	
も	ばれいしょ	101.61	91	94	101.61	84	<ul style="list-style-type: none"> 北海道産は、順調な生育で玉の肥大も良く、潤沢な出荷の見込み。 潤沢な出荷が見込まれることから、価格は引き続き平年を下回って推移する見込み。
		101.61	96	94	101.61	79	

- 1) 平均価格は、過去6年間の中央卸売市場の各指定野菜の卸売価格を物価指数で修正した価格の平均(消費税は除く)。
- 2) 旬別平均販売価格の赤字は平均価格を50%以上回るもの、背景ありは保証基準額(平均価格の90%)を下回るもの(消費税は除く)。
- 3) 単位は円/kg、上段は関東、下段は近畿ブロック。
- 4) 入荷見込量は、関東農政局及び近畿農政局「野菜の入荷量と価格の見通し」による。()内は前年対比。
- 5) 主産地は、東京都及び大阪市中央卸売市場への出荷の多い県名。()内は入荷シェアであり、関東は本年の見込み、近畿は前年の実績。
- 6) コメントは、都道府県、出荷団体、都道府県野菜価格安定法人、卸売会社等からの聴取りをもとに機構が作成したもの。

2 野菜の需要動向

家計調査によると、7月の1人当たりの生鮮野菜の購入数量は、4,319gで前年比99%、購入金額は、1,651円で同94%となり、購入数量は前年並みで、購入金額は前年をかなり下回った。

また、小売物価統計によると、8月のキャベツの小売価格は、115円で過去5か年平均比74%、レタスは、309円で同67%となり、キャベツ、レタスともに過去5か年平均を大幅に下回った。

年	過去5か年平均		平成23年		平成24年			
	購入数量(g)	金額(円)	購入数量(g)	金額(円)	購入数量(g)	前年比	金額(円)	前年比
1月	4,263	1,528	4,310	1,573	4,189	97	1,634	104
2月	4,403	1,552	4,267	1,629	4,499	105	1,735	107
3月	4,815	1,721	4,867	1,788	4,584	94	1,851	104
4月	4,779	1,812	4,796	1,789	4,620	96	1,904	106
5月	5,109	1,894	5,171	1,820	4,945	96	1,948	107
6月	5,043	1,872	4,904	1,857	5,103	104	1,875	101
7月	4,441	1,696	4,362	1,759	4,319	99	1,651	94
8月	4,348	1,719	4,392	1,717		0		0
9月	4,831	1,804	4,598	1,803		0		0
10月	5,262	1,862	5,037	1,884		0		0
11月	5,016	1,636	5,091	1,613		0		0
12月	5,145	1,834	4,998	1,792		0		0

資料：総務省「家計調査報告(二人以上世帯(農林漁家世帯を除く))」

主要野菜の月別小売価格(東京都区部)の推移 (単位：円/kg)

月	キャベツ			レタス		
	過去5か年平均	平成24年	5か年比(%)	過去5か年平均	平成24年	5か年比(%)
1月	166	230	138	547	690	126
2月	177	247	140	508	691	136
3月	188	238	126	461	692	150
4月	238	262	110	462	513	111
5月	172	196	114	380	409	108
6月	144	127	88	350	305	87
7月	160	119	75	324	292	90
8月	156	115	74	463	309	67
9月	155		0	562		0
10月	161		0	505		0
11月	162		0	371		0
12月	153		0	453		0

- 1) 過去5か年は平成19～23年の平均。
- 2) 平成24年8月の値は、8月中旬の速報値。

資料：総務省「小売物価統計調査報告」

3 野菜の輸入動向

8月の輸入を植物防疫統計で見ると、たまねぎは前年比122% (中国は同110%、アメリカは同117%) の2万7千トン、にんじんは同68% (中国は同71%、ニュージーランドは同66%) の5千トン、ねぎは同79% (中国は同79%) の4千トンとなった。たまねぎは、前年を大幅に上回り、にんじん及びねぎは、前年を大幅に下回った。

区分	平成22年		平成23年		平成24年1～7月		平成24年7月	
	前年比	前年比	前年比	前年比	前年同期比	前年同月比	前年同月比	
生鮮野菜	820,687	133	915,091	112	633,174	112	77,995	137
加工野菜	1,677,840	107	1,803,510	107	1,105,488	107	165,870	117
野菜合計	2,498,527	114	2,718,600	109	1,738,662	108	243,814	123
うち中国産野菜合計	1,284,449	117	1,409,984	110	864,377	108	124,332	118
中国産シェア	51		52		50		51	

資料：ベジ探 (原資料) 財務省「貿易統計」

主な野菜の輸入動向 (単位：トン、%)

品目	輸入先	平成23年8月(A)	平成24年8月(B)	(B)/(A)
		たまねぎ	合計	22,261
たまねぎ	中国	21,976	24,277	110
	アメリカ	127	1,490	1,173
にんじん	合計	6,930	4,696	68
	中国	6,069	4,306	71
	ニュージーランド	333	219	66
ねぎ	合計	5,179	4,085	79
	中国	5,177	4,082	79

資料：農林水産省「植物防疫統計」。平成24年8月は、速報値である。

4 トピック — 気温と野菜の消費の関係 —

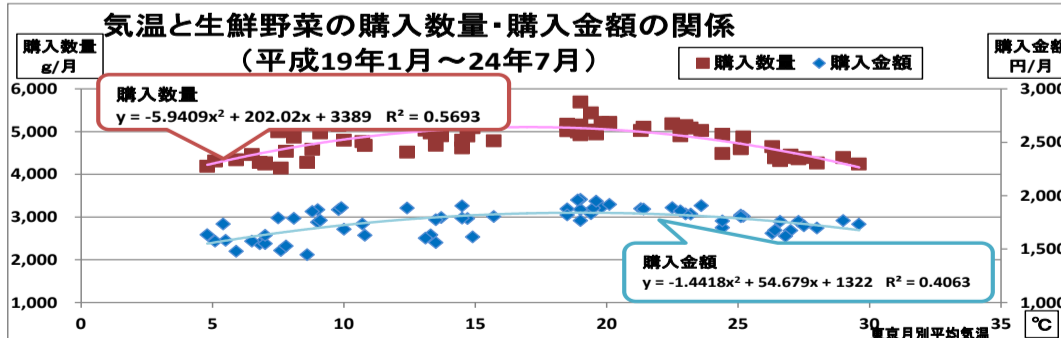
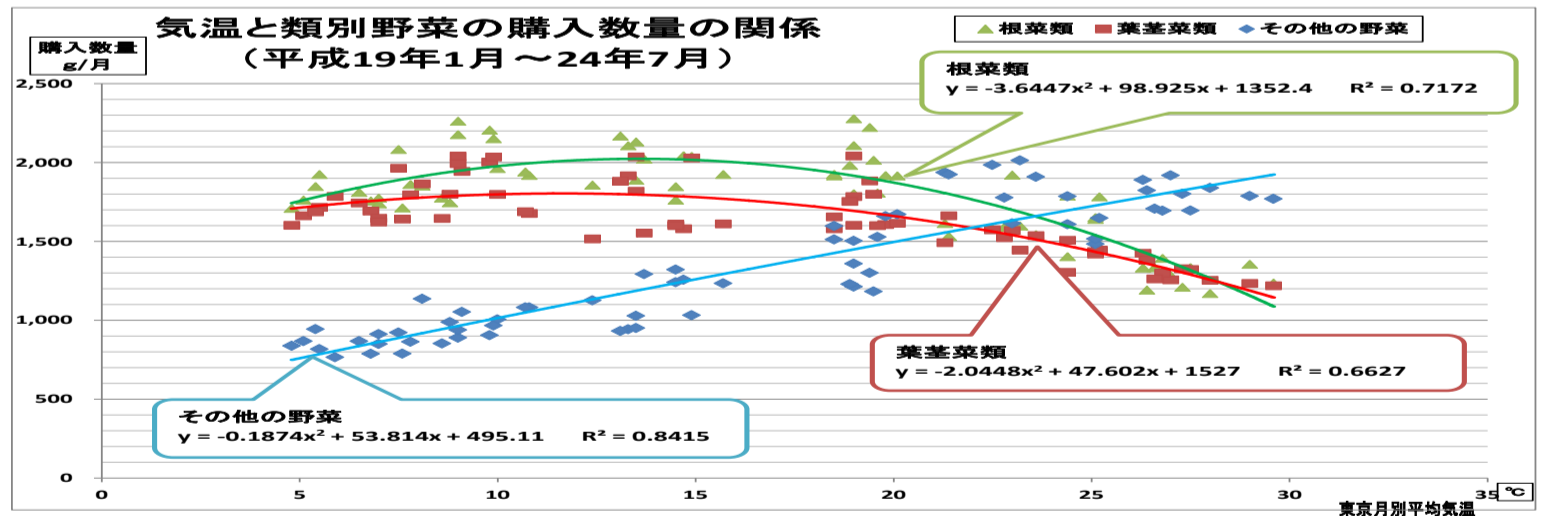
今年は、二十四節気で暑さがおさまるところとされる「処暑(しょしよ)」を過ぎてもおおしい残暑が続いている。「猛暑で野菜の消費が減少している。」と言われてはいるが、気温は、野菜の生産はもちろん、野菜の消費にも影響を与えている。

大消費地である東京の平均気温と、家庭での生鮮野菜の購入数量や購入金額の関係を見ると、気温が高くなるにつれて購入数量、購入金額とも増加するが、一定の気温よりも高くなると、いずれも減少している。

このうち、購入数量について、葉茎菜類、根菜類とその他の野菜に分けて見ると、葉茎菜類と根菜類は、一定の気温よりも高くなると、購入数量が減少する。特に、根菜類はその程度が大きい。根菜類は煮炊き調理が多く、暑くなると特に敬遠されるようになるのではないかと考えられる。

一方、その他の野菜は、気温が高くなるにつれて購入数量が増加し、葉茎菜類や根菜類と違った傾向を示している。果菜類やかぼちゃが夏野菜として旬を感じられることや、トマトやきゅうりがサラダ等として非加熱調理で食べられることが、暑い中でも需要をけん引しているのではないかと考えられる。

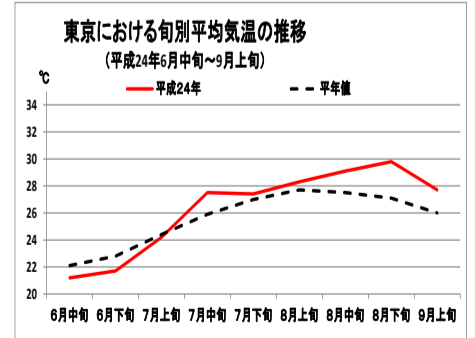
今年の夏の東京の平均気温は、例えば8月が平年に比べて1.7℃高いなど、高めに推移しており、このことが葉茎菜類や根菜類の購入数量の減少に拍車をかけ、キャベツやはくさい等の価格の低下の要因のひとつとなったのではないかと考えられる。



資料：(購入数量)「家計調査報告(二人以上世帯(農林漁家世帯を除く))」、(平均気温)気象庁

注) 各類別に含まれる主な野菜は以下のとおり

- ① 葉茎菜類：キャベツ、ほうれんそう、はくさい、ねぎ、レタス、ブロッコリー、もやし等
- ② 根菜類：かんしょ、ばれいしょ、さといも、だいこん、にんじん、ごぼう、たまねぎ、れんこん、たけのこ等
- ③ その他：さやまめ、かぼちゃ、きゅうり、トマト、なす、ピーマン、生しいたけ等



資料：ベジ探 (原資料) 「気象庁」

- 問い合わせ先 独立行政法人農畜産業振興機構 野菜需給部 需給業務課 村野、須藤、山田 TEL03-3583-9483、FAX03-3583-9484 ご意見、ご要望をお寄せください。
- ◆「野菜の需給・価格動向レポート」は月2回公表しています。公表時にメルマガでお知らせしますので、ご希望の方はベジ探のトップ画面、メルマガ配信登録・解除ボタンから登録してください。
- ★この「野菜の需給・価格動向レポート」は、http://vegetan.alic.go.jp/vegetable_report.html に掲載しています。